

記入日 2022年9月30日
 助成団体名 NPO法人みらい600

2021年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	親子居場所事業・こころケアセッション
取り組み実施期間または日時	2021.10. ~ 2022.9.30

【取り組み目的】

子どもの健全育成を目的として親子への支援活動

【取り組み内容と成果】

・親子居場所事業として海浜地区では親子の相談や居場所づくり相談支援を主に課題解決に向けて取り組みを行った。
 ・子どもの対象にたいして支援は在宅訪問による学習環境への虐待防止に努めている。
 また不登校の子どもの場合には、専攻科社会(こころケアセッション、学習)を使って心ケアと実践の支援をするのを見守りながら必要に応じて行う。

【備考欄】

(法第28条第1項関係様式例)

2021年度事業報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

NPO法人 みるくらぶ

1 事業の成果

2021年度もこれまで同様に相談と在宅支援を主に取り組んだ。

一昨年開設した阿蘇の居場所を有効に活用しながら、地震後から継続的に行ってきた親子を対象に予防的観点を重視し活動を実践できた。

具体的には、心のケアを中心に日常生活の見守りと随時必要な食糧や情報提供などを行ってきた。

一昨年からの新型コロナウイルス感染予防対策の必要性から一堂に会しての学習支援およびレクレーション活動はできなくなったが、社会的距離を確保できるよう人数制限を行い可能な範囲で楽しく人とつながる機会を提供できた。

子育て支援に関わる事業では、毎週末阿蘇の居場所と週2回（月曜・水曜）学校などを利用し相談援助および心のケアなど実践。その間政府から発令される自粛宣言時には、対象者の自宅を戸別訪問しながら見守りを行った。

生活支援事業においても同様に戸別訪問しながら、孤立を防ぎ、認知症予防のための見守りを兼ねたフラワーアレンジメントなどを行った。

自立支援事業も同じく、拠点を利用し、就労している母親からの相談援助を中心に随時必要な支援を行った。

活動を継続する中で感じていることは、復興格差について。地震から6年、復興の掛け声とともにハード面は整備されていくが当法人の支援している個人や世帯はまだまだ道半ばであり復興できたとは言い難い状況にあり支援の必要性を感じている。今後も格差を少しでも緩和できるよう被災者の方々に対して、よりきめ細やかに見守る機会を作りながら実態に沿った支援が行えるよう活動を充実させていきたい。

これまでの活動は大方がメンバーの手弁当で賄っており、収益を上げられないのが当法人の大きな課題でもある。一昨年前から継続的に支援をいただいている公益財団法人「共生地域創造財団」様、「水俣・熊本未来基金」様と有志の方々に感謝を申し上げたい。

一期一会・みんなで創る「はっぴーアレンジ」※②

2022年5月3日（火）

開催場所：下通アーケードCOCOSAビル前

